

 シラバス参照

<<最終更新日：2016年03月04日>>

基本情報

| | | | | | |
|----------|--|------------|-----|-------|------------|
| 時間割コード | F1768N | 開講区分(開講学期) | 2学期 | 曜日・時間 | 月3 |
| 開講科目名 | 日本語教育学研究III b | | | 教室 | 箕/A棟603講義室 |
| 開講科目名(英) | Studies in the Teaching of Japanese as a Second Language III | | | 定員 | |
| 必修・選択 | | | | 単位数 | 2 |
| 対象所属 | | | | 年次 | 3,4年 |
| 担当教員 | 真嶋 潤子 | | | 開講言語 | 日本語 |

詳細情報

| | |
|-----------|--|
| 講義題目 | 日本語教育とバイリンガル教育とアイデンティティ |
| 授業の目的と概要 | 将来、国内や海外で日本語教育の分野で活躍するために、第二言語としてのあるいは外国語としての日本語教育や年少者教育を、社会的課題として捉え、言語教育政策への理解を深める。また日本語教育の分野で卒論を書くことを念頭に置いている受講生に、研究方法の知識を身につける手助けをする。 |
| 学習目標 | 日本語教育における第二言語習得研究や、年少者への日本語と母語のバイリンガル教育に関する基礎知識を確認しながら、習得と言語教育政策についての諸問題を考えられるようになる。その分野の論文を批判的に読むための目を養う。また、自分で言語習得やアイデンティティに関する興味・疑問を元に、研究課題を設定して調査を行い、報告する。 |
| 履修条件・受講条件 | 日本語教育学の基礎知識があること。 できれば、第1期の「外国語教育」（木2、担当：櫻井千穂）を受講済みであること、第2期の「外国語教育（K）」を同時履修すること、または第二言語習得の基礎知識があることが、望ましい。 |
| 特記事項 | 特になし。 |
| 授業形態 | 講義科目 |
| 授業外における学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に授業のテーマに関する論文または本の章を読むこと。 ・授業のテーマに関連のあることを調べて分析し、発表できるように準備すること。 具体的には、授業中に指示をする。 |
| 教科書・教材 | 授業中に指示する。 迫田久美子 2002 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 明石書店 小柳かおる 2004 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 スリーエーネットワーク 中島和子 2002 『バイリンガル教育の方法』 アルク |

| | |
|------|--|
| 参考文献 | 宮崎幸江編 2014『日本に住む多文化の子どもと教育 ―ことばと文化のはざま で生きる―』上智大学出版 その他は授業で紹介する。 |
| 成績評価 | 出席＋授業貢献度（発言数） 40％ 学期末の課題発表 30％ 期末レポート 30％ (発表とレポートについての評価項目、基準は授業中に配布する。) |
| コメント | 特になし。 |

授業担当教員

| 教員氏名 | 所属・職名・講座名 | e-mail |
|-----------|-----------|--------|
| データがありません | | |

授業計画

第1回 オリエンテーション

- 2 文化間移動と子どもの言語発達 (1)
- 3 文化間移動と子どもの言語発達 (2)
- 4 日本に住む多文化家族のバイリンガリズム
- 5 子どものアイデンティティ交渉 (1)
- 6 子どものアイデンティティ交渉 (2)
- 7 ブラジルの日系人と在日ブラジル人 (1)
- 8 ブラジルの日系人と在日ブラジル人 (2)
- 9 ことばとアイデンティティ (1)
- 10 ことばとアイデンティティ (2)
- 11 日本の言語教育政策 (1)
- 12 日本の言語教育政策 (2)
- 13 実践報告・調査報告1
- 14 実践報告・調査報告2
- 15 総括